

「家がいいね」 第126号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2014. 11. 4

悪い冗談? 「いつまでもお元気で」

最近、言葉は文字通りと受け取られ、その背景が豊かに連想されないようです。「いつまでもお元気で」は、「死ぬことなんて考えられない」と死を視野に入れないための合言葉のようです。



臨終の場という言葉のやり取りで、在宅医として驚く例ですが、その時が迫っており「危篤」とお伝えしてもピンと来ないようなのです。「なぜ私が着くまで待ってくれなかった」「どうして、こんなに急に死ぬの」と言われると、死期を約束のようには守ってほしいと勘違いされてないか、延命治療を時間限定で求められるの?と気になります。

ゆらぐ命の灯が何時消えるか、予測は困難です。具体的に「あと何時間」と提示しなければ、忙しい家族の時間を看取りに割けないのでしょうか。看取りとは間に合うかどうかでなく、臨終に至る時間を共に過ごすということとを忘れないことです。

「不健康」は価値がない?

健康寿命が大切だから、それを延ばすことが重要で、不健康な時期はできるだけ避けたいと言われますが、ピンポイントの言い換えでしょうか。そんな事故のような命の終わり方をする人は数パーセントもありません。大半の人にとっては、思い通りにならず差し障りのある心身を抱えながら最後の数年を過ごすことになるのです。だから、障害を持っても尊厳を持って生き、最期まで輝けるように、この社会を作り変えるべきなのです。

リハールは大事でしょうね!

ある人の言葉に「災害は必ずしも来ないかもしれないが、毎年防災訓練をするのに、必ず訪れる我が身の死を、なぜ想定訓練しないのでしょうか」

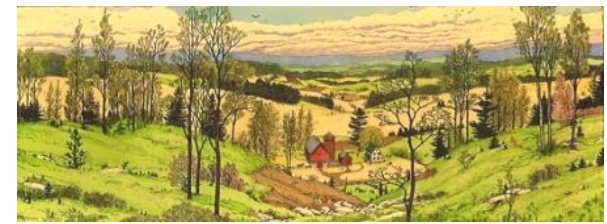
今日は死ぬのもってこいの日だ。
生きていくものすべてが、わたしと呼吸をあわせている。
すべての声が、わたしの中で合唱している。
すべての美が、わたしの目の中で休もうとしてやって来た。

あらゆる悪い考え方は、わたしから立ち去っていった。
今日は死ぬのもってこいの日だ。
わたしの土地は、わたしを静かに取り巻いている。
わたしの畑は、もう耕されることはない。
わたしの家は、笑い声に満ちている。
子どもたちは、うちに帰ってきた。
そう、今日は死ぬのもってこいの日だ。

右の詩に「どうしたら、もってこいの日を選べるの?」と質問がありました。難問ですね。でもリハールを重ねることはできます。この詩はそういう意味もあるのではないかと改めて考えられました。リハールの言葉では、**ありがとう、さようなら**、の二つが大事。その集大成は「**いい人生だったよ**」で決まりです!

終の棲家を知るために
みえ生と死を考える市民
会の勉強会です。

11月22日(土) 13時半から15時半
三重県総合文化センター(津市) 生活工房にて
講師 森美由紀さん(ケアマネ)



少し早いですが、年末年始のお話

年賀ハガキも売り出され、カレンダーも店頭に並びます。予定に繰りこんでもらうために、当院の休診の期間を、お知らせします。

12月28日(日) ~ 1月4日(日)

この期間も在宅患者さんには、当院医師や看護師が24時間で、相談の連絡に応じます。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>